

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 17 日作成)

小委員会名	感覚・知覚心理小委員会		主 査 名：松原斎樹 就任年月：2007 年 2 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境心理生理運営委員会		委員長名：加藤信介 主 査 名：讃井純一郎
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音・光・熱・空気等に関する横断的な委員会を組織する。</li> <li>・上記によって研究交流を活発化する。</li> <li>・以上のことによって、本学会の発展に寄与する。</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り		
	秋田剛(東京電機大学), 翁長博(近畿大学), 梅宮典子(大阪市立大学), 太田篤史(横浜国立大学), 合掌頭(岐阜大学), 高田暁(神戸大学), 長野和雄(島根大学), 西名大作(広島大学), 原直也(関西大学), 光田恵(大同工業大学), 山中俊夫(大阪大学)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2006 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1.(名称) 環境評価におけるモデル化と実験手法 参加者数 34 名 (資料名) 建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム(第2回)資料集 2.(名称) 環境評価における社会的・文化的視点(予定) 参加者数 名 (資料名) 建築空間における感覚・知覚心理シンポジウム(第3回)資料集
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 横断的委員会の設置に関しては、達成されたといえる。 2. 研究交流を活発化することはシンポジウムにおいて達成されつつある, 3. 本学会の発展には一定の貢献をしている。
委員会活動の問題点・課題	1. シンポジウムの宣伝を強化すれば、より多くの早期の申し込みが増える。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2 年間で 3 回のシンポジウムを開催し、それぞれ、41 名、34 名、(3 回目は 3 月開催予定) という参加者数があることは積極的に評価することができる</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。